

群 教 セ	G15 - 01
	平 28.260 集
	高 - キャリア

平成 28 年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社上毛新聞社

長期社会体験研修員 金澤 正則

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社上毛新聞社は、前橋市に本社があり、県内各地域に 13 の支局及び東京、大阪に支社を持つ企業である。上毛新聞（明治 20 年創刊）の発行を主な事業としており発行部数は約 30 万部、県内シェア約 4 割を誇る地方新聞である。県内ニュースを重視した地域密着型の紙面構成となっている。本紙とスポーツ紙の 2 部構成となっており、業界でもまれな構成である。近年の通信事業の多様化に伴いインターネット配信にも力を入れている。

2 研修先での主な研修内容

(1) 高崎支局での研修【4月1日～5月31日】（研修場所：高崎市役所内記者クラブ）

高崎市内で行われる展覧会や講演会などの催し物、画家や彫刻家の個展などの取材活動を行った。また、専門学校や高齢者のクラブ活動の発表会や田植え、火渡りなどの季節の話題を取材した。取材の方法から記事の書き方、写真撮影のテクニックなど記者の基本的業務について研修を受けた。

(2) 報道部（政治部）での研修【6月1日～7月14日】（研修場所：県庁刀水クラブ）

群馬県議会や各種常任委員会、知事の定例会見など県内政治の動向を取材した。改正公職選挙法の成立により、高校生も 18 歳になれば選挙権を持つこととなり「18 歳からの一票」の連載企画にも携わった。選挙事務所や街頭演説にも同行し取材活動を行った。

(3) 運動部での研修【7月15日～9月30日】（研修場所：本社）

県内スポーツ関連やイベントの取材活動を行った。夏、秋の高校野球県予選、中学校や高校の総合体育大会、実業団選手、ザスパクサツ群馬や群馬ダイヤモンドペガサス選手、ソフトボールやフエンシングのオリンピック選手などへ取材を行った。

(4) 報道部（経済部）での研修【10月1日～12月31日】（研修場所：県庁運動クラブ）

県内の企業や経済に関する取材活動を行った。起業に関する話題や女性の働き方、後継者問題を取り上げた講演会の取材を行った。また、新店舗の紹介や季節に応じた企業の動き、まだ公表されていない新商品の取材を行った。県内経済の動向として、日本銀行が行う全国企業短期経済観測調査や産経土木常任委員会などの取材も行った。

(5) 編集部での研修【1月1日～3月24日】（研修場所：本社）

記事に見出しを付けたレイアウトを検討する業務を行った。記事を読み込み、見出しを考える上でのルールや要点を学んだ。また、記事を配置する場所により文字の大きさを変えるなど紙面構成の在り方について、実務研修を積むことができた。レイアウトを設計する際に用いる指定紙の書き方や紙面作成ソフトの操作を学び紙面を作成した。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

企業研修を通して学んだ知識を基に、働くことの意義や楽しさを生徒に伝えることをねらいとしてリーフレットを作成した。具体的には、新聞社の組織図や一日のスケジュール、新聞ができるまでを記載し、仕事に対する情熱と良好な人間関係の構築が社会人に求められていることを理解できるように工夫した。生徒が学校で学ぶ意義や目的、将来の進路選択と働くことを意識して考えるための資料として作成した。

(2) 実践の概要（県立渋川女子高等学校）

① 授業実践

題材名 「働くことを意識して高校生の時期に何をすべきか考える」（特別活動）

対象 第2学年3組40名

授業は2時間で展開し、前半は本研修で新聞記者として体験した取材活動の様子や作成した記事を基に、記事の書き方、新聞の構成等について講義を行った。後半は、良好な人間関係の構築をねらいとした演習を行った。「隣の人の将来の夢」や「隣の人の魅力」をテーマに、インタビュー、記事の作成を実施した。授業では「伝え方」に重点を置き、オープンクエスチョンやクロージドクエスチョンについて紹介し、文章を書く力だけでなくコミュニケーションの必要性に気付けるように授業を展開した。

② 校内研修

研修の成果と研修先企業の情報提供を目的として校内研修を行った。研修先の事業内容、人材育成の取組、研修内容や研修で作成した記事等について紹介した。また、実務研修で感じた社会で求められる力や新聞社が求める人材について説明し、高校生活において充実した学校生活を送ることが最も重要であることを所属校職員に伝えた。

II 研修成果

1 記者としての実務研修について

県内の政治や経済の動向、催し物、スポーツ等取材し、教科書や資料集では取り上げていない県内の情報を深く観察できたことは貴重な経験となった。また、記者としての実務からビジネスコミュニケーションや取材相手へのコミュニケーション、読み手を意識した文章の書き方の基本を学んだ。記者としての実務研修で得た知識を教科指導や進路指導に活用したい。

2 コミュニケーションについて

取材活動や記事作成などの実務から、ビジネスコミュニケーションだけでなく、インタビューの方法や同僚とのコミュニケーション、記事による文章での伝え方など様々なコミュニケーションの在り方を学ぶことができた。相手のことを考え、適切な言葉でやり取りをした経験は生徒への進路指導や生徒指導、保護者対応などで生かすことができると考える。また、言葉だけではなく、事前準備や熱意など、研修で学んだ姿勢や態度についても生かしていきたい。

3 キャリア教育について

今回の研修を通して、コミュニケーション能力や自らを成長させる力、主体的に動く力の必要性を強く感じた。実社会が求めている人材、企業の人材育成等を具体的に学んだことは、今後、生徒が直面する進路選択において、実社会を意識した進路指導として積極的に支援したい。また、学級や学年における進路指導に対して、所属校の実態を踏まえたキャリア教育を提案していきたい。

III まとめ

これまで、企業の実態把握に努力しながら進路指導をしてきたが、この研修を通して改めて企業が求める人材について知ることができた。今後は、進路指導において働くことへの理解とともに、高校生として身に付けるべき力を育てていきたいと考える。企業が求めている人材は、自らを向上させていく意欲やコミュニケーション能力のある人物である。これらの必要性について、様々な機会に指導をしていきたい。進学する生徒に対しても、働くこととはどういうことなのかを考えさせていきたい。

本研修で得た様々な経験を、生徒のより良い進路実現に役立てたい。

（担当指導主事 相京 貴志）